

モモンガの話

小林守城

のんのさまの山には ももんがあがいて 暗くなると 風呂敷をひろげて 人さらいにやつてくる。風呂敷につつまれた子どもはいい気持ちになって 奥山につれていかれて 帰らなくなつてしまふんだぞーと。薄暗くなつたら 背戸のあたりで 一人遊んじやなんねえぞーと。リヨ お婆やんが 怖い顔して言っていた。のんのさまのももんがあは 本当に 悪いことすんだんべか。くらねえーよ と言つてはみたが 晩方にはいつもその話が思い出されて さみしくなつてきて うす気味悪かつた。あの風呂敷はお母おっかあの匂いがするんだと 里山のひとり暮らしのおエン婆おおんばあさんが言っていたらしい。夏になるといつも 南方で戦死した 息子のことでおかしくなり 麻切り包丁を持ち出して 何やら叫び歩きだす人だった この話を次の世代の わたしの子どもに話してみたら 子どもは そのころはやりの 「モモンガ―Z」 と変身して遊ぶことを覚えてしまった。